

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年1月23日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3490500133		
法人名	医療法人社団 住吉医院		
事業所名	グループホーム ちゅうりっぷ		
所在地	〒737-2607 広島県呉市川尻町東3丁目8番5号 (電話) 0823-70-5700		
自己評価作成日	平成24年12月1日	評価結果市町受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490500133-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490500133-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4丁目46-9
訪問調査日	平成25年1月23日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

<p>事業所理念である「利用者の方に幸せになって頂く為に努力します」を念頭に置き、安心していただける介護を目指しています。家庭的な雰囲気作りと、優しさと思いやりの心を持ち、生活支援を心掛けています。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、川尻町の中心部に位置し1階小規模多機能型なのはなと2階グループホームちゅうりっぷで交流しながら運営している。地域医療を目指した医療法人が設立しており、代表者が地域住民から信頼されており、利用者からも病院が近くにあるため医療面でも安心が得られている。町内会に加入し町内行事である年2回の清掃に参加し、法人全体で行う夏祭りには、屋台が出たりして地元の多くの方が参加して事業所と地域とのつながりに良い影響を与え交流している。事業所理念である「利用者の方に幸せになって頂く為に努力します」を台所に張り出し職員全員で理解し、毎日唱和して日々の業務に実践している。利用者の方々の思いや希望を少しでも叶えるために、結婚式を挙げられなかった利用者にウエディングドレスを職員が手作りで準備し、今までかなえられなかった事を実現してあげるなど、本人本位に検討し支援に取り組んでいる。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「利用者の方に幸せになって頂く為に努力します」という理念のもとに作成した物の掲示とその唱和、及び職場の教養(冊子)の朗読を毎朝実行しその共有に努めている。	外に出る機会と地域とのつながりを大切にし利用者寄り添いその人らしい生活の支援を目指している。事業所理念である「利用者の方に幸せになって頂く為に努力します」を台所に張り出し職員全員で理解し、毎日唱和して日々の業務に実践している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	夏祭りなどの季節行事や年に2回の町内清掃に参加し、地域と交流できるように努めている。	町内会に加入し町内行事である年2回の清掃に参加し、法人全体で行う夏祭りには、屋台が出たりして地元の多くの方が参加して事業所と交流している。町内会の商店への買物にも出かけ交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議や見学等の希望があれば受け入れ理解をしていただけるよう努めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を開催し、近況報告や行事の報告、意見交換を行い、アドバイスを受けている。	運営推進会議は、約2ヶ月に1回行われ、呉市福祉保健課・包括支援センター・家族・管理者・副統括・職員が参加している。事業所の近況や行事予定や意見交換を行うなど事業所運営に役立っている。	
5	4	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の介護保険課とは不明や所があれば電話・訪問で相談している。運営推進会議の参加に努めている。	市介護保険課とは、介護保険に関する事項や相談をし、地域包括支援センター職員とは、事業所の利用状況など連絡・相談をしアドバイスや意見を頂いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束ゼロを目指す」マニュアルを通じて、全職員が理解している。	職員には研修を通じて、学ぶ機会を持つと共に一人一人の周知にも努めている。玄関前が交通量の多い道路の為やむをえず施錠している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止法(高齢者虐待の防止、高齢者の擁護者に対する法律)の意義に対する理解を深め、その定義、責務についての勉強会をしている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度の利用者様がおられず、勉強会は開催していませんが、パンフレット等での理解をしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時に必要な時間をかけ、十分に説明を行い、本人の思い、家族の希望を聞き、文書により同意と納得を得ている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様やご家族に意見や要望を伺えるように声掛けをしている。	家族来訪時・電話連絡の時に近況報告をし、普段の様子から質問や相談をお聞きする時間を持つようになっている。家族からの意見をノートに記録し個々に対応し運営に反映している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的に会議を開催している。職員の意見や提案を取り入れることができている。	毎月のミーティングや日々のケアの中で職員のお一人お一人の意見や提案を聞き検討し、法人全体の会議にも意見や提案を提出し検討し運営に反映している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	評価制度を導入し、個々のレベルにあった給料水準を決定する仕組みとなるよう努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修の案内を配布し、呼びかけている。法人内でも研修計画を作成し、実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	定期的な交流はないが、認知症介護アドバイザー同士が連絡を取り合い、交流を持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>サービス利用前に面接を行い、利用者様に不安な事、困った事をよく聞くように心掛けている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>ご家族に不安な事、要望を聞き、安心して利用して頂けるよう努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>アセスメントを行い、必要に応じ問題点がある場合には、適切なサービスが行えるように心掛けている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>利用者様と一緒に暮らす人として、日々の生活を通じて、一緒に過ごす時間を大切にしている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>人居様のみではなく、家族の生活に対しても総合的な支援となるように心掛けている。特に離れて暮らしている家族に対しての心情の共感をもとにケアが行えるように心掛けている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>家族、知人、友人が訪れて頂いた時に、気軽に再来して頂ける様な配慮を行っている。また企画行事(誕生日会、お楽しみ会)等へ気軽に参加して頂けるような声掛けを行っている。</p>	<p>アセスメントの内容を参考に利用者のこだわりを大切に実現に向けて出来るだけ支援している。地域社会との交流が途絶えないように家族の支援を頂きながら、外食に行ったり、墓参りに行かれたりして関係が途切れないように支援している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>職員も会話に参加し、孤立しないように声掛けや、作品作り、行事の参加で、利用者同士の関係を保てるよう努めている。</p>		

グループホーム ちゅうりっぴ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了しても困った事があれば何時でもお気軽に相談して下さいと伝えている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いやりや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の思いや暮らし方の希望が「喜怒哀楽表現や本人の言葉、家族からの話」等を通じて情報を得ている。	利用者の習慣や思考を把握し本人と話し合い本人の意向、希望を第一に考えている。思いを伝えられない利用者には、表情や反応で確認しながら利用者本位の視点に立った支援を心がけている。	
24		これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	上記に加え、家族、これまで利用してきたサービス機関からの情報提供依頼を行っている。		
25		暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の観察と記録、申し送りをし、現状の把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者様の思い、家族の希望を伺い、カンファレンスにて、検討し、介護計画を作成している。	アセスメントを十分に行い、日常のケース記録をもとにカンファレンスで検討し、利用者の意向を大切に介護計画を作成している。状態変化時には随時見直しを行っている。日常の業務の中で職員一人一人が考える力の重要性を意識して利用者の生活の質の向上に努めている。	
27		個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録を作成し、情報の共有に努め、介護計画の見直しをしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者様本意の生活、家族の状況に合わせて柔軟に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域生活の継続性という視点から、緊急時の連絡体制などを補う事を目的とし、近隣住民や民生委員、地域包括支援センター等に必要な相談連絡を行っている。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人と家族の希望や経緯を最優先とし、これまで受診されてきたかかりつけ医が継続受診できるように支援を行っている。	利用者や家族が希望する受診先を聞いているがほとんどの利用者が母体の病院の医療機関で医療・リハビリを受診している。歯科医の訪問診療にも対応している。その他眼科等は家族対応が基本で都合の悪い場合はスタッフが介助支援している。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師の訪問時、健康状態を看てもらい、職員が適切な対応ができるようにしている。必要であれば受診できるよう体制を整えている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	総合病院等の連携者(ソーシャルワーカー)を通して入退院に係わる相談、手続き、必要情報(看護サマリー等)の交換に努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	担当者会議及びその他の相談をもとに、本人と家族の意思が最大限尊重されるように努めている。	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時に説明している。実際に重度化した場合は、利用者、家族の希望を聞いたり医師・職員と連携をとりながら、事業所のできることを十分に説明し方針を共有しながら看取りの支援をしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	ヒヤリハット事例やアクシデント報告を通して、急変時及び事故発生時の対応及び連絡経路の確認を行っている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の協力指導により避難訓練を行っている。	消防署立ち合いの元年2回避難訓練が小規模多機能型施設と一緒に行われている。利用者の方も外まで実際に避難され、水消火器にて消火訓練も行われている。地域の方の参加はない。	地域の方に避難訓練への参加を呼びかけて、災害時に地域住民の協力が得られる体制作りを期待します。

グループホーム ちゅうりっぷ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	法人理念を毎朝唱和する事により職員一人一人が常に心掛けるよう努めている。	利用者の個々の思いを理解し、いかに受け止め大切にすることを心がけるようにしている。声掛けには職員同士で特に注意し、プライバシーを損ねないように努めている	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者様が意思表示や自己決定が行いやすいように心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事、入浴の時間等はできるだけ本人の意思に合わせて行っている。また、作品作りやおやつ作り等は自由参加のもと行う。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣服の選択の際、なるべく本人に選択して頂くようにしている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	歩行状態などの安全確認のもと、食事や片付けを職員と一緒にしている。	食事は、朝と夜は職員と利用者で調理している。昼の食事については、調理したものを個々の体調に合わせて、刻んだり小分けにしたりして食事をしている。時折季節の行事に合わせて行事食やオードブルを皆さんでいただいている。食事は職員も同じテーブルで同じものを歓談しながら食事をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	医療スタッフとの連携により食事量(摂取カロリー)、水分量等の管理(記録)を行っている。嗜好により、醤油やソース等の調味料を本人に選択してもらっている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを行っている。必要であれば歯科と連携し、往診を依頼する援助を行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	身体状況に合わせて日中、夜間を問わず、排泄はなるべくトイレで行うよう声掛け、誘導をしている。	排泄チェック表から利用者の個々の排泄パターンを把握し、さりげなく誘導している。利用者の自尊心に配慮し排泄行動を直接表現するのではなく、しぐさなどに注目しトイレでの排泄支援を見守りも含め全員行っている。	

グループホーム ちゅうりっぷ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	野菜など食物繊維が摂取しやすい献立や嗜好に応じてヨーグルト等を摂取して頂く、水分をしっかりと取れるように工夫をしている。また、体操や散歩等も取り入れている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	本人の合意のもとで入浴のタイミングを決定している。	基本的には、利用者の希望に応じた入浴体感を心がけているが入浴は週3回としている。それ以外は、足浴の対応を行い利用者により信頼関係を築けるようにコミュニケーションを取ることに努めている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	体調や生活リズムに合わせて体を横にできる時間が随時とれる体制をとっている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医療スタッフ及び薬局との連携のもと症状や服薬管理、薬剤形状等を検討している。また、それぞれが服用している薬剤情報をファイルし、その確認を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	趣味や嗜好に沿ってそれぞれが目標が持てるようなグループワーク(おやつ作り、手作業等)を取り入れている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	桜や紅葉など季節が感じとれるよう(家族参加型)外出の機会を企画している。入居者さんの希望により日常的な散歩や近所商店での買い物などへ出かけている。	同法人の関連施設の有料老人ホーム「オーシャンローズ」へ「湯けむり露天風呂ツアー」を企画し利用者の方がとても喜ばれたそうです。秋には紅葉狩りに出かけたリポートピアやダイソーの百円均一に買物ツアーに出かける支援をしている。	利用者の方々を露天風呂入浴に外出支援されたことは大変好評だったそうですので今後も継続されることを期待します。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	「お金を支払って自分の欲しい物を購入する」買い物機会を設けている。		

グループホーム ちゅうりっぴ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	随時希望に応じて電話等の方法で家族とのやり取りが取れる様な体制をとっている。		
52	19	居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	移動動線上の安全確保をするために廊下に物を置かないようにしている。季節を感じる作品等の掲示を行っている。温度、湿度はいつも気をつけている。	共用空間は南側に面しており明るく街並みが良く見え、温度、湿度の調整もできている。畳のスペースやソファが配置されていて利用者は思い思いの場所でくつろいでいる。行事の掲示をしたり利用者の施設での様子を写真で張り出し家族の面会時に持ち帰りが出来るようにしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	自由な形で利用できる畳の間(スペース)を設けている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の使い慣れた物等を使用してもらい、居室内の配置は本人や家族の希望に応じて行っている。最大限の安全確保など	居室には家族と相談しながら利用者お一人お一人の生活スタイルに合わせて、馴染みの物を持ち込んでもらうようにすすめ、それぞれ個性的な雰囲気作りをして本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	身体状況に合わせ利用する部屋の配置を行い無理のない生活上の移動が行えるように配慮し、危険リスクを軽減することに努めている。場所が解りやすいように目的に応じてトイレや浴室前には掲示をしている。		

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	ほぼ全ての利用者の 利用者の3分の2くらいの 利用者の3分の1くらいの ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	ほぼ全ての家族と 家族の3分の2くらいと 家族の3分の1くらいと ほとんどできていない

グループホーム ちゅうりっぷ

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	ほぼ全ての職員が 職員の3分の2くらいが 職員の3分の1くらいが ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族等が 家族等の3分の2くらいが 家族等の3分の1くらいが ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム ちゅうりっぷ

作成日 平成 25 年 1 月 25 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		事業所と地域との付き合いが不足している	近所、地域の人にグループホームの事を理解して頂く	入居者の人が町から孤立する事がない様にし、出会った人には挨拶をする	1年
2		同業者との交流ができていない	交流の機会を持ち、サービスの質を上げる	情報交換等の機会を持つようにする	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。